令和4年度 前期始業式 式辞

虻と風

西宮香風高校のみなさん、おはようございます。

春という季節を全身で感じられるような柔らかな陽射しの中で、令和4年度の始まりの日を迎えることができました。この場所で、またこうしてみなさんに会えたこと、また西宮香風での日々を始められることをとてもうれしく思います。今日は香風高校のとても大切な価値観のひとつ、「多様性」についてお話しします。金曜日の入学式の式辞でもこのことに触れたので、新入生のみなさんにとっては少し重なる部分があるかもしれませんが、聞いてください。

20世紀から21世紀の現在に至るまで、私たち人間を含む生き物全体の生態系から、多様性がどんどん失われ続けています。具体的には野生生物の種の絶滅がかつてないスピードで進んでいます。そのことに危機感を覚えた人類は、およそ200の国々が「生物多様性条約」という約束を結び、ほぼ2年に1回のペースで締約国会議を重ねています。生物多様性というのは、たくさんの生命が直接間接に他のたくさんの生命とかかわるなかで、お互いの生命を支え合っているという考え方です。ですから、種の絶滅が進むと何が困るのかというと、世界全体の生命を育む力、生命を守る力がどんどん弱くなってしまうのです。

このことを見事に表現した作品に、吉野弘という詩人の「生命(いのち)は」という詩があります。

生命は/自分自身だけでは完結できないように/つくられているらしい/
花も/めしべとおしべが揃っているだけでは/不充分で
虫や風が訪れて/めしべとおしべを仲立ちする
生命は/その中に欠如を抱き/それを他者から満たしてもらうのだ

世界は多分/他者の総和
しかし/互いに/欠如を満たすなどとは/知りもせず/知らされもせず
ばらまかれている者同士/無関心でいられる間柄
ときに/うとましく思うことさえも許されている間柄
そのように/世界がゆるやかに構成されているのは/なぜ?

花が咲いている/すぐ近くまで/虻の姿をした他者が/光をまとって飛んできている

私も あるとき/誰かのための虻だったろう

あなたも あるとき/私のための風だったかもしれない

このことは、生態系だけでなく、社会や組織にもあてはまります。どちらも、多様性がある方がないよりも強くなる、といわれています。所属するメンバーに多様性があれば、物事を様々な角度から見たり、考えたりできるようになって、そこから新しい発想が生まれ、古い形からアップデートできるようになります。また、いろいろな人がそれぞれの得意不得意を活かして対応できることで、ストレスや課題に対して強くなります。私たちは意識しないところで、「誰かのための虻」になったり、「私のための風」になった誰

かに助けてもらったりしているんですよ。

多様性を大切にすることは、このように私たちにとって必然とさえいえます。けれども、国際社会が何年もかけて話し合いを積み上げているように、それは決して容易なことではありません。私たち自身もまた、多様性について学び、経験を積み重ねていくことが必要です。互いの個性を尊重していくために、お互いにルールを守りマナーを身につけることも、大切なことです。

減少傾向とは言え、コロナの感染者数も下げ止まっています。引き続き感染対策には気をつけながら、令和4年度がいい年になるよう、一緒にがんばっていきましょう。

令和4年4月11日

兵庫県立西宮香風高等学校
校 長 谷口 暢謙